

第1表

2小笠原中発第248号
令和3年3月5日

小笠原村教育委員会 殿

学 校 名 小笠原村立小笠原中学校
校 長 名 小 野 満 賢

令和3年度教育課程について（届）

このことについて、小笠原村立学校の管理運営に関する規則第15条に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

- よく学び、考え、行動する人
- やさしくたくましい人
- 社会の一員として貢献できる人

日本国憲法及び教育基本法等の精神を基調とし、人間尊重の精神に富み、郷土を愛するとともに、国際社会において信頼されるための豊かな見識と広い視野をもち、国際社会や地域社会に貢献することのできる人材の育成を目指す。また、日々変化する社会状況を幅広く視野に入れ、予測不能の未来においても柔軟に、よりよい社会の創造のために努力することのできる人間性を育むことを目指し、この教育課程を編成する。その願いを込め、校訓として「紳士たれ・淑女たれ」を掲げ、その精神を養う。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 全教育活動を通して基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う。また、教科等横断的な視点に立ち、身に付いた確かな学力を活用し、直面する課題をグローバルな視点で捉え、解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、自らの力を地域や社会のために進んで役立てようとする行動力を育成する。
- イ すべての生徒にとって分かりやすく学びやすい教育を実現するために、ユニバーサルデザイン化の推進を図るとともに、個性や能力を最大限に伸ばすための指導を充実させる。また、特別支援教育コーディネーター及び校内委員会を中心に、家庭やスクールカウンセラー、関係諸機関との緊密な連携を進め、特別支援教育の充実を図る。
- ウ 人間性を豊かにし、規範意識を高めるために、心の教育及び人権教育を教育活動全体で推進し、道徳性を養う。異年齢集団を意識的に組織し、生徒会活動や学校行事及び地域の活動等に積極的に取り組ませ社会性を育成する。
- エ 健康・安全に生活する力を培うために、食や性に関する理解を深め、自己の健康に対する意識を高めるとともに、体力の維持・増進を図る。
- オ 社会の多様な変化に対応する力を高めるために、問題解決的な学習を行うとともに、自ら立てた問いに主体的に取り組ませることや、どんな状況下でも最善を尽くすことを通して課題対応能力を育成する。また、キャリア教育を教育活動全体で行い、社会的・職業的自立を目指す。
- カ 開かれた学校の実現を目指し、家庭・地域との連携を密にするとともに、学校関係者評価等を活用して積極的に学校改善を図り、保護者・地域・生徒に信頼される学校づくりを進める。
- キ 公開授業、ホームページの更新、学校便りの配布等の広報活動や情報発信を行うとともに、家庭・地域社会・関係諸機関等と連携し、懇談や協議を通して多様な人々との協働を促す教育活動の一層の充実を図る。
- ク 系統的な教育活動を進めるために、小笠原小学校、母島中学校、都立小笠原高等学校と研修会や合同行事、小中高教科交流等を通し、さらなる連携を推進する。特に小笠原小学校とは、将来の一貫教育に向けて相互の理解と確かな接続を図っていく。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間

ア 各教科

- (ア) 学ぶことの意義を実感させることで学びに向かう力・人間性を涵養するとともに、生徒による授業評価の結果や、国・都・村の学力調査の結果を分析し、積極的に授業改善を行う。また、学力向上への取組・主体的・対話的で深い学びの充実に向け、教育活動の充実を図る。
- (イ) 基礎的・基本的な知識、技能を身に付けるために年間指導計画、評価計画に基づいて計画的に授業を実施するとともに、週ごとの指導計画による授業時数の実績管理や学習状況の把握に務める。
- (ウ) 学習内容を確実に身に付けることができるよう、全ての教科においてユニバーサルデザイン化を推進するとともに、生徒の実態に応じ、学習内容の習熟の程度に応じた指導形態や、学年を越えて立ち戻る指導・補充学習等を行い、個別最適な学びの充実を図る。
- (エ) 課題や目的に応じて情報端末や通信ネットワーク等の教育機器を効果的に利用し、生徒の学習意欲を喚起するとともに、学習活動の充実を図る。
- (オ) 生徒が互いの意見や収集した情報を聞き、その共通点や相違点を考えながら、知識を関連付ける等の言語活動を各教科の特性を生かして行い、言語能力、情報活用能力等、学習の基盤となる資質能力を育成する。
- (カ) 望ましい学習態度を身に付けさせるとともに、家庭学習を含めた望ましい学習習慣の確立のための指導を、小笠原小学校及び家庭と連携しながら推進する。
- (キ) 体力テストの結果を分析し、課題の克服のために授業の工夫改善を行う。意欲を喚起し、教育環境を活かして運動の日常化を図り、自ら健やかな体づくりを進められるようにする。また、遠泳大会、小中高連合運動会、村のロードレース大会等に向けた取組を体力向上に有効に活用する。
- (ク) 平和なより良い社会の構築を目指す態度の育成を図り、スポーツの魅力を学ぶとともに、オリンピック・パラリンピック開催の意義を見つめ、4×4の取組を意図的・計画的に取り入れ、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。また、自己の最善を尽してスポーツをする態度を育てる。
- (ケ) 性に関する正しい知識を身に付けることができるよう、『性教育の手引き』を活用し、生徒が必要な情報を自ら収集し、適切な意志決定や行動選択を行い、健全な生活を送るための資質・能力を育成する。

イ 道徳科

- (ア) 道徳的な心情、判断力、実践意欲等の道徳性を養うため、生徒・学校及び地域の実態を踏まえ、道徳教育の全体計画、及び道徳科の時間の年間指導計画、評価計画に基づき、全教員で道徳教育に取り組む。
- (イ) 道徳的価値に基づいた人間の生き方について考えを深め、道徳的実践力を高めるために、考え、議論する道徳を通して、自他の違いを認め、尊重する思いやりの心情を基盤に【チャレンジ精神、コミュニケーション能力、判断力・選択能力】を指導の重点とする。
- (ウ) 生徒の実態や発達段階を踏まえ、生徒自ら道徳性を育む適切な資料を取り入れ、生徒の実践意欲や態度等の道徳性を養う。指導を確認・改善しながら道徳科の授業をより一層充実したものにする。
- (エ) 道徳教育推進教師を中心に指導体制を充実させ、道徳教育を校内研修の中心と位置付ける。また、年間を通じて振り返りと改善を行う。
- (オ) 人権教育の推進及びいじめの未然防止を図るために、生命を尊重する心を醸成し、自他ともにかげがえのない存在であることを自覚させ、自尊感情・自己肯定感・自己有用感を育てる。また、ふれあい月間の道徳科の授業において人との関わりに関する項目を扱い、相互の関係を見直し、よりよい集団形成の意識を高める契機とする。
- (カ) 家庭や地域社会との連携を図り、三者が一体となった道徳教育を推進し、生徒の道徳的実践力の高まりを共有するために、週休日や祝祭日に「道徳授業地区公開講座」を実施する。
- (キ) 学年全体で道徳の授業の検討や振り返りを行うとともに、多面的な生徒の成長や内面的な変容を見取り、適正な評価を行う。

ウ 総合的な学習の時間

- (ア) 「課題設定能力」「解決能力」「まとめる能力」「プレゼンテーション能力」「学び合う能力」等のスキルを身に付けさせるとともに、自主的、自発的な学習の促進を図る。学習目標を明確にし、3年間を見通した計画的な指導を展開し、その定着度や達成度を確認し、その段階に応じた課題を与え、成長を促していく。
- (イ) 現代的な諸課題に対して横断的に取り組むために、各教科、道徳科及び特別活動の年間計画との関連を明確にする。また、各教科等で身に付けた資質や能力及び態度を生かした体験的・問題解決的な学習を行う。
- (ウ) 情報機器やゲストティーチャーの活用、学校図書館の計画的な利用、社会教育機関や地域との連携を通して、社会や世界に関する興味や関心を深め、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- (エ) 小笠原学習【第1学年では固有種植物等の理解をねらいとした世界自然遺産・小笠原に関する環境について、第2学年では戦跡調査や硫黄島訪島に関する平和学習について、第3学年では修学旅行と関連させた日本の伝統と文化や、小笠原の海洋生物について】を柱として課題を設定し、問いを見いだす。自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する探究的な学習について年間指導計画を作成し、学習活動を行う。
- (オ) 情報機器に関する知識・技能の習得や情報活用能力を育成するとともに、情報モラル・情報セキュリティへの意識を高め、探究的な学習や成果の発表等でICT機器を積極的に活用する。

エ 特別活動

- (ア) 意図的・計画的に学校行事を実施し、自己の生き方についての考えを深め、自己を多面的に生かす能力を涵養する。
- (イ) 各学年での宿泊行事や生徒会活動において異年齢集団の交流等を通して集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む。様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いの良さや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担おうとする意欲を涵養する。
- (ウ) 社会的マナーや集団生活における言動等、場面に応じた適切な行動や全体を考えて行動ができる場面を意図的に設ける。
- (エ) 望ましい職業観や内発的学習意欲を喚起・育成するために、第1学年では職業調べ・働く人の話を聞く会、第2学年では職場体験活動、第3学年では上級学校訪問や企業・大学訪問等を計画的に行い、3年間を見通したキャリア教育を推進する。

(2) 特色ある教育活動

- ア 情操教育及び協同的・創造的な活動として全校生徒による吹奏楽の活動を行う。
- イ 国際社会で活躍する人材を育成するために、英会話を実施し、英語におけるコミュニケーション能力の向上を図る。
- ウ 全校で朝の一斉読書活動を行うなど、学校教育全体を通して生徒の自主的、自発的な読書活動の推進を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するための基盤づくりを行う。
- エ 系統的な教育活動を展開するために異校種間で交流を行う。また、相互の理解を深め、互いの学校を尊重する態度を育むため、母島中学校との学習交流会や小笠原小学校、都立小笠原高等学校との教科交流会、出前授業、百人一首大会及び運動会等を実施する。
- オ 持続可能な社会づくりに向けた教育の取組として地域の機関と連携を密にし、調査及び知識習得活動（戦跡調査、海洋調査等）やボランティア活動（東平サンクチュアリでの外来種駆除、母島移動教室における海岸清掃等）を行う。
- カ 学習習慣を定着させるために、昼休みに学習する時間を確保する。

(3) 生活指導・キャリア教育

ア 生活指導

- (ア) 生徒理解に努め、一人一人を大切にす姿勢に基づき、授業規律・挨拶・言葉遣い・身だしなみ・時間厳守・清掃活動の指導を全校共通理解の下に推進することを通して、基本的な生活習慣の確立を図る。また、社会生活を営む上で大切な一人一人の規範意識と公德心の向上を目指すとともに、生徒の生活リズムの向上のため、家庭と連携を図り、「早寝・早起き・朝ごはん」等の

望ましい生活習慣の定着を目指す。

- (イ) いじめや不登校等を未然に防止するために、小規模校の利点を生かし教員相互の情報交換や生徒との相談を密に行うとともに、関係機関と連携を図り、生徒一人一人の変容を捉える。また、生徒一人一人の人権を尊重し、いじめを絶対に許さない学校づくりを推進する。「いじめ総合対策【第二次】」・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ対応マニュアル」の見直し、学校いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応を通して、いじめの未然防止と早期の発見・対応・解決に取り組み、生徒が安心して通える学校とする。
- (ウ) 生徒の健全育成及び安全への意識向上を図るために、小笠原警察署等の関係諸機関、地域と連携した交通安全教室やセーフティ教室を実施し、安全教育の充実を図る。また、「交通安全」、「薬物乱用防止」、「情報モラル」等、健全育成上の課題を家庭や地域と連携して解決する。情報モラルの指導では、『SNS東京ノート』の活用や『SNS東京ルール』の周知を通して、ネットワークトラブルの未然防止を図る。
- (エ) 防災教育の充実を図る。災害に備え日頃からとるべき行動や、災害が起こったとき、その場でとるべき行動ができるよう、あらゆる場面を想定した避難訓練を実施するとともに、安全指導の日を中心に、『地震と防災』、『3.11を忘れない』、『東京防災』、『防災ノート』等を活用し、自らの安全を確保するために行動できる力、他者や地域のために貢献する態度の育成を目指す。
- (オ) 様々な困難やストレスに対処する力を育成するために、SOSの出し方に関する教育を行うとともに、日常の教育活動や多面的な面談を活用し、生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努める。また、スクールカウンセラー等と連携した教育相談機能を整備し、きめ細かく丁寧に組織的に対応する。
- (カ) 特別な配慮を要する生徒など、個に応じた指導の充実に努める。特別支援教育の推進では、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を中心として全教職員が情報を共有する。

イ キャリア教育

- (ア) 基礎的・汎用的能力を養い、社会的・職業的に自立するために必要な意欲、態度、能力の育成を行い、自己の生き方について深く考える指導を行う。
- (イ) 特別活動を要とし、各教科、道徳科、総合的な学習の時間、及び各学年の取組と関連付けてキャリア教育全体計画、指導計画を作成し、3年間を見通して計画的・組織的にキャリア教育の推進を行う。
- (ウ) 道徳科、特別活動、進路学習と関連した職場体験活動を通して、望ましい職業観や勤労観を形成する。
- (エ) 都立小笠原高等学校を訪問し、卒業生の話聞くことや、修学旅行で村外の上級学校を訪問することを通して、進路に関する現実的な探索を行う。
- (オ) 生徒一人一人の将来への希望と個性や特性が生かされるよう、個別の面談を充実させ、家庭との連携を深め、肯定的自己理解と自己有用感の獲得を目指す。
- (カ) 生徒の自立と社会参加に向けた意欲を培うため、地域との連携を図り、職業人から話を聞くことや、職業を調べる等の探究的な活動を系統的・計画的に取り組む。

第3表

学校名 小笠原村立 小笠原中学校

3 学年別授業日及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	18	19	22	12	4	21	22	19	18	16	19	18	208
2	19	19	23	12	4	21	22	19	18	16	19	18	210
3	19	20	23	12	4	21	22	19	18	16	19	14	207
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年は入学式が4月7日のため、4月は授業日数が1日減。(第2、3学年は6日始業式) ・第2学年は硫黄島訪島事業に2日間休日が入るが、振替休業日を1日設定し、6月の授業日数が1日増。 ・第3学年は修学旅行出発日が休日であるが、振替休業日を設定しないので、5月の授業日数が1日増 ・第3学年は修学旅行中に2日間休日が入るが、振替休業日を1日設定し、6月の授業日数が1日増。 ・第3学年は卒業式が3月19日のため、3月の授業日数が4日減。 <p>【休日授業実施日について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 4月29日(木) 4校時まで ② 5月22日(土) 4校時まで ③ 9月18日(土) 4校時まで ④ 9月25日(土) 6校時まで(振替休業日有) ⑤ 10月30日(土) 5校時まで(振替休業日有) ⑥ 12月18日(土) 5校時まで(振替休業日有) ⑦ 1月22日(土) 4校時まで ⑧ 2月11日(金) 6校時まで ⑨ 1月ロードレース大会 5校時まで(振替休業日有) 												

(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の年間授業時数配当表

領域		学 年	1	2	3
各 教 科	国 語		140	140	105
	社 会		105	105	140
	数 学		140	105	140
	理 科		105	140	140
	音 楽		45	35	35
	美 術		45	35	35
	保 健 体 育		105	105	105
	技 術・家 庭		70	70	35
	外 国 語(英語)		140	140	140
	小 計		895	875	875
領 域	道 徳		35	35	35
	総合的な学習の時間		50	70	70
	特別活動(学級活動)		35	35	35
総 計			1015	1015	1015
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○週5日間で29単位時間の授業を行う。 ○特色ある教育活動(週1単位時間をあてる) <ul style="list-style-type: none"> ・全校吹奏楽活動を年間を通して行う。(授業時間内に10時間程度) ・ALTによる英会話活動の授業を年間25単位時間以上設定する。 ・年間を通して朝に帯の時間帯を10分設け、読書活動を行う。 ・必要に応じて、補充学習及び学習会を行う。(昼休み・放課後等) ○余剰時間について <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年 80時間程度 ・第2学年 77時間程度 ・第3学年 27時間程度 				

第4表

学校名 小笠原村立小笠原中学校

4 学校行事

月 日	4		5		6		7		8		9	
	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	木		土		火	安全指導	木	安全指導	日		水	避難訓練
2	金		日		水	小中連携の日	金	遠泳大会	月		木	安全指導 移動教室終(1)
3	土		月	憲法記念日	木	避難訓練	土		火		金	
4	日		火	みどりの日	金		日		水		土	
5	月	春季休業日終	水	こどもの日	土		月		木		日	
6	火	始業式	木		日		火	避難訓練	金		月	都・学力調査
7	水	入学式	金	避難訓練	月	水泳指導始	水		土		火	
8	木		土		火		木		日	山の日	水	
9	金	安全指導 定期健康診断始	日		水		金		月	休日	木	
10	土		月	安全指導 村・学力調査	木	修学旅行終(3)	土		火	学校閉庁日	金	水泳指導終
11	日		火		金	振替休業日(3)	日		水	学校閉庁日	土	
12	月	避難訓練	水		土		月		木	学校閉庁日	日	
13	火		木		日		火		金	学校閉庁日	月	
14	水		金		月		水	セーフティ教室 薬物乱用防止教室	土		火	
15	木		土		火		木		日		水	
16	金		日		水		金	終業式	月		木	
17	土		月	学校公開始	木	硫黄島訪島事業始(2)	土	夏季休業日始	火		金	
18	日		火		金		日		水		土	授業日 学校公開
19	月		水		土		月		木		日	
20	火		木		日	硫黄島訪島事業終(2)	火		金		月	敬老の日
21	水		金		月	振替休業日(2)	水		土		火	
22	木		土	学校公開終 授業日	火		木	海の日	日		水	
23	金		日		水	期末考査始	金	スポーツの日	月		木	秋分の日
24	土		月		木		土		火		金	
25	日		火		金	期末考査終	日		水	夏季休業日終	土	授業日 学校公開 連合運動会準備
26	月		水		土	開校記念日	月		木	始業式	日	連合運動会
27	火		木	国・学力調査(3)	日		火		金		月	振替休業日
28	水		金		月		水		土		火	振替休業日
29	木	昭和の日 授業日	土		火		木		日		水	
30	金		日	修学旅行始(3)	水	体力テスト終 定期健康診断終	金		月		木	
31			月	体力テスト始			土		火	移動教室始(1)		
備考	父母学習交流会											

第4表

学校名 小笠原村立 小笠原中学校

月 日	10		11		12		1		2		3	
	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	金	都民の日 安全指導	月	振替休業日	水	安全指導	土	元日	火	安全指導	火	安全指導
2	土		火	安全指導	木	避難訓練	日		水		水	
3	日		水	文化の日	金		月		木	避難訓練	木	避難訓練
4	月		木		土		火		金		金	
5	火	避難訓練	金	避難訓練	日		水		土		土	
6	水		土	東京都教育の日	月	職場体験始(2)	木		日		日	
7	木		日		火		金		月		月	
8	金		月		水	職場体験終(2)	土		火		火	
9	土		火		木		日		水		水	
10	日		水		金		月	成人の日 冬季休業日終	木		木	
11	月		木		土		火	始業式 安全指導	金	建国記念の日 道徳授業地区公開講座 授業日 学校公開	金	遠足(3)
12	火		金		日		水	避難訓練	土		土	
13	水		土		月		木		日		日	
14	木		日		火		金		月		月	
15	金	中間考査	月		水		土		火		火	
16	土		火		木	新入生保護者説明会	日		水		水	
17	日		水	期末考査始	金		月		木		木	
18	月		木		土	授業日 学校公開 音楽発表会	火	学校公開始	金		金	卒業式
19	火		金	期末考査終	日		水	小中連携の日	土		土	
20	水	小中連携の日	土		月	振替休業日	木		日		日	
21	木		日		火		金		月		月	春分の日
22	金		月		水		土	授業日 学校公開終	火	学年末考査始	火	
23	土		火	勤労感謝の日	木		日		水	天皇誕生日	水	
24	日		水		金	終業式	月		木		木	
25	月	学校公開始	木		土	冬季休業日始	火		金	学年末考査終	金	修了式
26	火		金		日		水		土		土	春季休業日始
27	水		土		月		木		日		日	
28	木		日		火		金		月		月	
29	金		月		水		土		△		火	
30	土	学校公開終 授業日	火		木		日				水	
31	日		金		金		月				木	
備考							ロードレース大会					